

第68回国際食肉科学技術会議 趣意書(改訂版)



2022年8月22日(月)～25日(木)
兵庫県神戸市 神戸国際会議場
現地およびWeb開催

日本食肉科学会 ICoMST2022組織委員会

最新版は <https://jmeatsci.org/events/icomst2022-page> からダウンロードできます

2022/03/15 現在

ご挨拶

趣意書 p.1～9

1. 会議の名称
2. 主催、後援
3. 母体機関
4. 開催場所
5. 開催期間
6. 参加予定者数
7. 参加費
8. ウェブサイト
9. 会議の目的と開催意義
10. 日本開催に至る経緯と期待される効果
11. 会議構成
12. 開催状況
13. 会議における特筆すべき事項
14. 開催にあたっての留意点
15. 本会議についての連絡先
16. 組織委員会・顧問名簿

協賛 募集要項および申込書 p. 10～12

展示 募集要項および申込書 p. 13～15

ご挨拶

謹啓 時下、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

この度、第68回国際食肉科学技術会議（International Congress of Meat Science and Technology、ICoMST）を2022年8月21日から25日の間、神戸市の神戸国際会議場において開催する運びとなりました。

ICoMSTは1955年に設立されたヨーロッパ食肉研究者会議に端を発する伝統ある国際会議で、現在では世界約40か国から400人の研究者と技術者が毎年一堂に会し、食肉生産をとりまく諸問題について専門的かつ総合的な知識の共有により解決への糸口を探る場として機能してきました。日本では1999年に横浜市にて第45回ICoMSTをアジア諸国に先駆けて開催し、今回の第68回会議は23年ぶり、二度目の開催となります。

この間、日本における食肉産業をとりまく状況も変化しました。少子高齢化やグローバル化の進展、コンピュータサイエンスやITの発達、さらには動物福祉や環境問題の顕在化など変化は多岐にわたります。第68回会議では「食肉の未来を考える」をメインテーマに据え、世界で活躍中の研究者や技術者を基調講演に招いた7つの幅広い学術セッションを通して、食肉業界での活躍を夢見る多くの学生を含む参加者とともに将来を展望した情報・意見交換を行います。世界の食肉研究の動向把握や先進科学技術の利活用など、これからの変化に対応するヒントと人材の発掘を通して、食肉産業とその周辺産業のさらなる発展に資する学術集会とすることを目標としております。

本会議の開催にあたり、その運営はできる限り簡素を旨とし、開催費用は参加者からの参加登録費と本会議の国内受入組織である日本食肉科学会（2021年度より「日本食肉研究会」から名称変更）の自己資金を主たる原資とする所存であります。それでもなお必要経費をまかなえる状況にはございません。本会議のプログラムを充実させ、その成果を大なるものとするためには、各方面からのご支援ご協力を仰がざるを得ないのが実情です。昨今の厳しい経済情勢の中、誠に恐縮に存じますが、本会議開催の主旨にご賛同いただき、格別のご高配を賜りたくお願い申し上げます。

末筆ながら貴社ならびに貴団体の益々のご発展を祈念申し上げます。

謹白

第68回国際食肉科学技術会議（ICoMST2022）組織委員会委員長
日本食肉科学会 理事長 坂田亮一

1. 会議の名称

和文名 | 第68回 国際食肉科学技術会議

英文名 | The 68th International Congress of Meat Science and Technology

(略称：ICoMST2022)

2. 主催、後援

主催 | 日本食肉科学会

後援 | (五十音順)

(公財) 伊藤記念財団、伊藤ハム米久ホールディングス(株) 中央研究所、
(一社) 家畜改良事業団、(独) 家畜改良センター、厚生労働省、
(一財) 神戸観光局、神戸市、(一社) 食肉科学技術研究所、食肉通信社、JA全農、
(公社) 全国食肉学校、全国食肉事業協同組合連合会、(公社) 全国和牛登録協会、
全日本大学対抗ミートジャッジング競技会、(公社) 畜産技術協会、
(公社) 中央畜産会、肉用牛研究会、日本家畜衛生学会、
(一社) 日本ジビエ振興協会、(公社) 日本食肉格付協会、
(一社) 日本食肉加工協会、(公社) 日本食肉協議会、
(公財) 日本食肉生産技術開発センター、(一社) 日本食品機械工業会、
(公社) 日本畜産学会、日本畜産物輸出促進協議会、
日本ハム・ソーセージ工業協同組合、日本ハム(株) 中央研究所、日本養豚学会、
(国研) 農研機構畜産研究部門、(独) 農畜産業振興機構、農林水産省、兵庫県、
兵庫県食肉事業協同組合連合会、プリマハム(株) 基礎研究所、
丸大食品(株) 中央研究所、ほか関係団体

3. 母体機関

国際食肉科学技術会議

(International Congress of Meat Science and Technology: ICoMST)

連絡先 : Contact Secretary, Dr. Declan J. Troy (アイルランド)

President, Institute of Food Science and Technology of Ireland

Teagasc Food Research Centre, Ashtown, Dublin, Ireland

4. 開催場所

神戸国際会議場 (現地およびリモート形式)

(神戸市中央区ポートアイランド、〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1)

5. 開催期間

2022年8月22日 (月) ~8月25日 (木) (4日間)

6. 参加予定者数

約40か国・地域 約400人（海外 約200人、国内 約200人）

7. 参加費

参加区分	事前	直前
一般	40,000 円	50,000 円
学生	15,000 円	20,000 円
申し込み期間	2022 年 5 月末日まで	2022 年 6 月 1 日～ 8 月 1 日まで)

現地会議場参加あるいはWeb参加も同額。

8. ウェブサイト

URL: <https://icomst2022.com>

9. 会議の目的と開催意義

国際食肉科学技術会議（International Congress of Meat Science and Technology）は、1955年に開催されたヨーロッパ食肉研究者会議で、その歴史が始まりました。以来60年以上にわたって、食肉および食肉製品の諸問題に関して、各国の研究者や技術者が幅広い分野にわたる研究成果を発表し、意見を交わす場として世界各国で年に1回開催されてきました。

本会議は食肉科学の発展に寄与するにとどまらず、世界の食肉産業の成長にも多大な貢献をしてきました。今後の食肉科学と食肉産業の発展においても、もはや欠かせない存在となったと言っても過言ではありません。

食肉分野における世界中のトップの研究者、技術者が神戸に一堂に会し、最新の研究成果等について発表・討論することにより、我が国の畜産および食肉産業の発展に寄与することをこの会議の目的としています。

10. 日本開催に至る経緯と期待される効果

(1) 日本開催に至る経緯

1999年にアジア最初の開催国として、日本（横浜）で第45回会議が開催されました。当時の関係者の尽力に加え、関係諸企業・団体からの多大な支援により、この会議は世界的にも高い評価を得ることができました。この大会の成功が機となり、その後のアジア諸国（中国、韓国、タイ）での本会議開催につながりました。一連のアジア諸国での開催により、食肉科学技術領域におけるアジアの存在は、世界において強く意識されるようになりました。

第45回会議から20年近くの時を経て、近年、再び日本での開催を望む声の世界から高まってきました。そこで日本食肉研究会会員を中心とするメンバーで協議を重ねた結果、二度目の本会議招致が望ましいとの結論に至りました。これを受けて、国際食肉科学会議の各国代表者会議において2022年日本開催を提案し、満場一致で賛同を得ることができました。その後、日本食肉研究会2017年度大会において、ICoMST2022組織委員会が発足し、現在、神戸における開催に向けた準備を鋭意進めています。

現在、新型コロナ感染による世界的パンデミックにより先が見えない状況が続いておりますが、従来通り行うこととし、現地およびリモート形式で実施致します。今後皆様には、食肉科学会のホームページもいつも見ていただきますよう、組織委員会一同よりお願い致します。

(2) 期待される成果

2022年に開催予定の第68回会議では、「食肉の未来を考える」をメインテーマに掲げています。流通のボーダーレス化が進む食肉・食肉製品においては、品質向上に貢献する生産加工技術の開発、IT・AIなど先進・高度化技術の導入、さらには動物福祉や地球環境への配慮をも視野に入れた幅広い課題が存在します。また、培養肉の開発技術も注目されています。日本で開催される本会議では、これらに応える最新の研究成果を発信し、将来を見据えた意見交換が行われることでしょう。

また、この機会に日本の技術およびその果実である独自の食肉・食肉製品を世界に発信することにより、海外市場における理解醸成と新規市場の開拓などを、あわせて期待しています。さらに、世界各国から集う研究者や技術者との交流は、日本の食肉科学技術領域における次世代を担う人材を育成する場としても、本会議の開催が意義あるものとなることを確信しています。

11. 会議構成

(1) 会議の日程（予定）

メインテーマ「食肉の未来を考える」

会議日程	午 前	午 後
8月22日 (月)	開会式 オープニング講演 セッションI. 世界の食肉市場 (市場動向, マーケティング) [基調講演 3 題、一般講演]	セッションII. 日本の食肉産業・科学技術 (世界に誇る和牛, ブランド肉, 最新研究動向) [基調講演2題、指名講演2題]
8月23日 (火)	セッションIII. 食肉微生物・安全性 (微生物制御, 添加物, 包装) [基調講演3題、一般講演] e-ポスター発表	セッションIV. 筋肉生物学・生化学 (最新筋肉研究, 筋肉から食肉への変換等) [基調講演 2 題、指名講演 2 題、一般講演] e-ポスター発表
8月24日 (水)	コングレスツアー (バーチャル) 企業展示プレゼンテーション (バーチャル)	
8月25日 (木)	セッションV. 食肉製品・利用 (ハム・ソーセージ, 副産物利用, ジビエ) [基調講演 3 題、一般講演] e-ポスター発表	セッションVI. 食肉の生産・品質 (生産, 格付, 品質、嗜好性) [基調講演 3 題、一般講演] セッションVII. 食肉科学技術の新展開 (機能性食品、代替肉、新技術) [基調講演 3 題] 総合討論 閉会式

(2) 会議使用言語

英語（一部同時通訳あり）、日本語

(3) 会議プロシーディングス

会議日程や発表演題・発表者名などをまとめたプログラム集を印刷して参加者全員に配布します。口頭およびポスター発表の発表要旨は、冊子または電子データの形式にて参加者全員に配布します。また、基調講演の講演要旨を収載した特別号を一般参加者、学生参加者に配布する予定です。

(4) 展示内容

学術展示：e-ポスター展示による研究成果発表 約200件

企業展示：食肉・食肉加工品、副生物、添加物、製造機械・設備、分析機器、試薬、書籍等の情報展示 約30社

(5) 参加予定国・地域

アイルランド、アメリカ、アルゼンチン、イギリス、イタリア、ウルグアイ、エジプト、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、スイス、スウェーデン、スペイン、タイ、チェコ、スロバキア、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、マレーシア、ユーゴスラビア、ロシア、台湾、韓国、中国、南アフリカ、日本、など約40か国・地域

(6) 収支予算案

収入	(千円)	支出	(千円)
会議登録料	15,000	事前準備関係費	15,000
学会負担金	5,000	当日運営費	35,000
協賛金・広告費	29,500	事後処理費	1,000
企業展示出展料	1,000	事務委託費	4,000
助成金・寄付金	4,500		
合計	55,000	合計（税込10%）	55,000

12. 開催状況（空欄は不明）

回	年	開催国	開催地	出席者数	同伴者数	参加者総数
1	1955	フィンランド	ヘメンリンナ	22	2	24
2	1956	西ドイツ	クルムバッハ	48	0	48
3	1957	デンマーク	ロスキルデ	48	0	48
4	1958	イギリス	ケンブリッジ	52	0	52
5	1959	フランス	パリ	64	18	82
6	1960	オランダ	ユトレヒト	77	21	98
7	1961	ポーランド	ワルシャワ	96	12	108
8	1962	ソ 連	モスクワ	74		74
9	1963	ハンガリー	ブダペスト	132	9	141
10	1964	デンマーク	ロスキルデ	139	17	156
11	1965	ユーゴスラビア	ベルグラード	189	53	242
12	1966	ノルウェー	サンデフヨルド	151	34	185
13	1967	オランダ	ロッテルダム	162	36	198
14	1968	チェコスロバキア	ブルーノ			
15	1969	フィンランド	ヘルシンキ	185	52	237
16	1970	ブルガリア	バルナ	217	47	264
17	1971	イギリス	ブリストル	248	49	297
18	1972	カナダ	ゲルフ	200	40	240
19	1973	フランス	パリ	230	75	305
20	1974	アイルランド	ダブリン	250		250
21	1975	スイス	ベルン	261	68	329
22	1976	スウェーデン	マルメ	247	45	292
23	1977	ソ 連	モスクワ	262		262
24	1978	西ドイツ	クルムバッハ	393	54	447
25	1979	ハンガリー	ブダペスト	270	55	325
26	1980	アメリカ	コロラド	300	100	400
27	1981	オーストリア	ウィーン	329	94	423
28	1982	スペイン	マドリード	325	44	369
29	1983	イタリア	パルマ	152	33	185
30	1984	イギリス	ブリストル	303	39	342
31	1985	ブルガリア	アルベナ	387	31	418
32	1986	ベルギー	アントワープ	331	46	377
33	1987	フィンランド	ヘルシンキ	210	44	254
34	1988	オーストラリア	ブリスベン	460	81	541

35	1989	デンマーク	コペンハーゲン	409	74	483
36	1990	キューバ	ハバナ	262	26	288
37	1991	ドイツ	クルムバッハ	450	71	521
38	1992	フランス	クルモン・フェラン	500	60	560
39	1993	カナダ	カルガリー	273	62	335
40	1994	オランダ	ハーグ	414	85	499
41	1995	アメリカ	サンアントニオ	657	140	797
42	1996	ノルウェー	リレハンメル	486	77	563
43	1997	ニュージーランド	ハミルトン	428		428
44	1998	スペイン	バルセロナ	610		610
45	1999	日本	横浜	458		458
46	2000	アルゼンチン	ブエノスアイレス	318		318
47	2001	ポーランド	クラクフ	344		344
48	2002	イタリア	ローマ	598		598
49	2003	ブラジル	サンパウロ	364		364
50	2004	フィンランド	ヘルシンキ	461	65	526
51	2005	アメリカ	バルチモア	647	61	708
52	2006	アイルランド	ダブリン	462		462
53	2007	中国	北京	454	78	532
54	2008	南アフリカ	ケープタウン	306	38	344
55	2009	デンマーク	コペンハーゲン	452		452
56	2010	韓国	済州島	385		385
57	2011	ベルギー	アントワープ	586		586
58	2012	カナダ	モントリオール	409		409
59	2013	トルコ	イズミール	388	51	439
60	2014	ウルグアイ	ブエノスアイレス	389	25	414
61	2015	フランス	クルモン・フェラン	427	29	456
62	2016	タイ	バンコク	276	126	402
63	2017	アイルランド	コーク	554		554
64	2018	オーストラリア	メルボルン	489		489
65	2019	ドイツ	ポツダム	509	52	561
66	2020	アメリカ (バーチャル形式)	フロリダ	594 (招待講演者など含む)	242 (学生)	836
67	2021	ポーランド (ハイブリッド型式)	クラクフ	420 (招待講演者など含む)	0	420
68	2022	日本	神戸			
69	2023	イタリア	パドヴァ (以後2024年ブラジル、2025年スペイン)			

13. 会議における特筆すべき事項

本会議を主催する日本食肉科学会では、国内の若手食肉研究者の参加発表を促進するためにPresentation Award（優秀発表賞）を設ける予定です。開会前後には、参加学生向けのプログラムとして数日間の共催セミナーが開催されることが多く、海外と国内の学生の交流がおこなわれます。また、学術セッションやYoung Scientist Award（若手研究者表彰）への企業等のご協賛による参加の機会を設けることで、将来の国内外の研究協力と研究展開を期待している点も、特筆すべき点です。

14. 開催にあたっての留意点

家畜・家禽の伝染性疾病の移入を徹底的に排除する防疫対策を行うことが必須です。会議プログラムでは、参加者が生きた家畜や家禽と接触することのないよう万全の注意を払い、やむを得ない場合には必要なダウンタイムを厳守させることを徹底します。

15. 本会議についての連絡先

日本食肉科学会内 ICoMST2022組織委員会 事務局
メールアドレス：secretariat@icomst2022.com

16. 組織委員会・顧問名簿

(1) 第68回国際食肉科学技術会議組織委員会（副部会長以上）

（略称：ICoMST2022組織委員会）（五十音順）

有原 圭三	北里大学
江草 愛	日本獣医生命科学大学
押田 敏雄	麻布大学 名誉教授
岡田 幸男	プリマハム(株)基礎研究所
河原 聡	宮崎大学
琴浦 聡	丸大食品(株)中央研究所
坂田 亮一（委員長）	麻布大学名誉教授、日本食肉科学会理事長
佐々木 啓介	農研機構
塩島 勉	日本食肉加工協会
島田 謙一郎	帯広畜産大学
竹田 志郎	麻布大学
辰巳 隆一	九州大学大学院
中出 浩二	伊藤ハム米久ホールディングス(株)中央研究所
西海 理之	新潟大学

西邑 隆徳	北海道大学大学院
根岸 晴夫	中部大学
長谷川 隆則	日本ハム(株)中央研究所
早川 徹	北海道大学大学院
林 利哉	名城大学
藤村 忍	新潟大学
松石 昌典	日本獣医生命科学大学
水野谷 航	麻布大学
宮口 右二	茨城大学
宮島 成郎	日本ハム・ソーセージ工業協同組合
本山 三知代	農研機構
山之上 稔	神戸大学大学院
若松 純一	北海道大学大学院

(2) 顧問 (50音順)

入江 正和	家畜改良センター理事長
高橋 正	全国食肉学校理事長
大野 高志	日本食肉格付協会会長
川島 俊郎	食肉科学技術研究所理事長
口田 圭吾	帯広畜産大学教授
高橋 清也	農研機構畜産研究部門長
関川 和孝	日本食肉生産技術開発センター理事長
丹治 宏之	プリマハム(株)基礎研究所所長
中根 正人	丸大食品(株)中央研究所所長
木下 良智	日本畜産物輸出促進協議会理事長
柴山 育朗	日本ハム・ソーセージ工業協同組合理事長、日本食肉加工協会理事長
岩間 清	日本ハム(株)中央研究所所長
三上 正幸	帯広畜産大学名誉教授
三輪 操	日本農芸化学会フェロー、元東京農業大学教授
六車 三治男	宮崎大学名誉教授
芳山 公一	伊藤ハム米久ホールディングス(株)中央研究所所長
山本 克博	酪農学園大学名誉教授

協賛 募集要項

2022年3月現在

1 募集内容

次ページの別表からご希望のスポンサーシップ項目（A1～A6、B）をお選びいただき、協賛申込書（12ページを印刷あるいはコピーしてご利用お願いします）にご記入の上お申込みください。

2 お申込み締切 : 2022年5月10日（火）

3 お申込み・問い合わせ先

協賛申込書をFAXあるいはE-mailでICoMST2022組織委員会事務局までお送りください。

FAX：0120-504-720

Email：secretariat@icomst2022.com

4 お支払い

お申込み確認後、請求書を送付させていただきます。また、お振込み確認後、領収書を送付させていただきます。

5 振込先

銀行名：三菱UFJ銀行 武蔵境支店

口座名：第68回国際食肉科学技術会議 組織委員会 委員長 坂田亮一

口座番号：普通預金0393270

6 振込期限：2022年6月10日（金）

7 キャンセル

お申込み後のキャンセルはお振込みより前にお申し出ください。お振込み後はキャンセル・変更・返金は致しかねます。

8 その他

本会議の収支予算書をご入用な場合は、ICoMST2022組織委員会事務局までご一報下さい。なお、本趣意書は、すでにご協賛をお申込みいただいた企業・団体様に、更なるご出資をお願いするものではございませんことを申し添えます。

別表 ICoMST2022スポンサーシップ特典（表中の●印は特典を示します）

スポンサーシップ		A1	A2	A3	A4	A5	A6	B
		プラチナ	ゴールド	シルバー	ブロンズ	パール	その他	共催イベント・セミナー
金額		500万円以上	300万円	200万円	100万円	10～50万円（ご相談）	5万円／一口	20～50万円（ご相談）
1	講演タイトルバックロゴ掲載（スクリーンへの投影）	●	●	●				
2	プログラム集への広告掲載	● 1頁	● 1/2頁	● 1/2頁	● 1/2頁			
3	会議ウェブサイトへのロゴ掲載（ハイパーリンク含む）	●	●	●	●			
4	会場入り口での常時ロゴ掲載（玄関看板）	●	●	●	●	●		
5	コンgresバッグへ広告同梱 ※1	●	●	●	●	●		
6	プログラム集パートナーページへのロゴ掲載	●	●	●	●	●		●
7	企業展示	●	●	●				
8	会議無料参加	● 5名	● 3名	● 2名	● 1名			
9	スポンサーロゴ入れ：コンgresバッグおよびネームストラップ	●						
10	スポンサーロゴ入れ：スタッフTシャツ	●	●					
11	スポンサーロゴ入れ：メモ用紙	●	●	●				
12	共催イベント・セミナー ※2	● ※1	● ※1	● ※1				●

※1：ご希望の場合

※2：共催イベント・セミナーに関する座長・演者・内容につきましては、事務局と相談の上ご決定ください。プログラム作成上、お早めのご相談をお願い申し上げます。また、開催日時につきましては前後のプログラムの関係から、ご希望に添えない場合があります。

展示 募集要項

2022年3月現在

はじめに

第68回国際食肉科学技術会議が現地（神戸国際会議場）からのリモート開催になったことから、企業等および書籍展示についても、原則的に第68回国際食肉科学技術会議ホームページ上でのWEB展示となります。

具体的には、出展社あたり1頁のWEBコンテンツを掲載させていただき、大会期間中に参加登録者が自由に閲覧できるようにいたします。また、一般発表プログラムがない2022年8月24日（水）を使用して、希望された出展社にはオンライン（もしくはオンデマンド）でのWEB展示企業プレゼンテーションを行っていただきますので、企業アピールや技術シーズ紹介にご利用ください。

1 日程（予定）

（事前準備） ～2022年8月20日（土）

（WEB展示） 2022年8月22日（月）9:00～

～2022年8月31日（水）17:00

（WEB展示企業プレゼンテーション：希望のうち最大8社を予定）

2022年8月24日（水）9:00～17:00

※ WEB展示仕様等の詳細につきましては、別途お知らせ致します。

2 展示場所 ： 第68回国際食肉科学技術会議ホームページ上のWEB展示会場

※ 神戸国際会議場3階レセプションホールでの展示の希望があれば、別途相談承ります。

3 出展対象 ： 食肉関連製品、食肉関連資材、食肉関連機器、食肉関連書籍等の分野

※ 会場展示の場合、音響の使用を制限させていただく場合があります。

4 出展料

WEB展示およびWEB展示企業プレゼンテーションとして200,000円（税込）

※ 神戸国際会議場3階レセプションホールでの展示（希望者）につきましては、以下の備品は主催者にてご用意いたします。

・展示机（W1,800 mm×D600 mm×H700 mm）×1

・ポスターボード（W900 mm×H1,800 mm）×1

なお、その他の機材ならびに展示品の搬入・設置・撤去につきましては、出展社自身で行っていただきます。（実費負担）

5 申込み締切り：2022年5月10日

6 お申込み・問い合わせ先

展示申込書（次ページを印刷あるいはコピーしてご利用お願い致します）をFAXあるいはE-mailでICoMST2022組織委員会事務局までお送り下さい。

FAX：0120-504-720

Email：secretariat@icomst2022.com

7 お支払い

オプションの申込については、申込書の受付後、別途ご案内いたします。お申込み内容確定後、請求書を送付させていただきます。

8 振込先

銀行名：三菱UFJ銀行 武蔵境支店

口座名：第68回国際食肉科学技術会議 組織委員会 委員長 坂田亮一

口座番号：普通預金0393270

9 振込期限：2022年6月30日（木）

10 キャンセル

お申込み後のキャンセルはお振込みより前にお申し出ください。お振込み後はキャンセル・変更・返金は致しかねます。

11 その他

神戸国際会議場3階レセプションホールでの展示の場合、各出展物の管理は出展者が行うものとし、展示期間中の出展物の盗難・紛失・災害等の責任について、主催者では一切負いませんのでご了承ください。また、展示する輸入食肉製品等につきましては、家畜伝染病予防法および食品衛生法に基づく必要な検査を受けて許可されたものに限り
ます。

年 月 日

第 68 回国際食肉科学技術会議
組織委員会 事務局 宛

第 68 回国際食肉科学技術会議 展示申込書

第 68 回国際食肉科学技術会議の趣旨に賛同し、展示・書籍販売の申込みをいたします。
(申込み欄に○印をご記入ください。)

申込み欄	区分	料金 (税込)
	WEB 展示	200,000 円

※ 神戸国際会議場 3 階レセプションホールでの展示希望があれば、以下にその旨を記載してください。事務局より相談に伺います。

--

貴社名	(日本語)	
	(英語)	
ご住所	〒	
ご担当者	ご所属:	
	ご担当者名:	
	TEL:	FAX:
	E-mail:	
振込予定日	年 月 日	

(お申込み・お問い合わせ先) ICoMST2022組織委員会事務局

Email : secretariat@icomst2022.com

FAX : 0120-504-720

万一、1 週間以内に折り返しの連絡が無い場合は、大変恐れ入りますがEmailあるいはFAXで受信確認をお願い致します。

<恐れ入りますが、この頁をコピーしてお使い下さい>



ICoMST2022
KOBE JAPAN